

令和7年度一般選抜（前期日程） 歴史総合・世界史探究 標準解答例

〔1〕標準解答

インド洋では、1世紀頃から、季節風を利用してアラビア半島とインドを結ぶ海上交通が盛んとなり、地中海地域の商人やインドのサータヴァーハナ朝などがローマ帝国とインドの産物を、紅海を経由して交易した。またインドと東南アジアを結ぶ交易路が確立されており、東南アジアには港市国家が発達して、やがてインド文化を取り入れていった。こうして地中海から東南アジア・中国に至る「海の道」が形成された。その後、8世紀頃になるとイスラーム国家の成立にともなってムスリム商人がダウ船によってインド洋交易に乗り出し、紅海とインド洋を結び、アフリカ東海岸に居留地を作るとともに、東南アジアにも進出した。この結果、アフリカ東海岸にはスワヒリ文化が生まれ、東南アジアにも徐々にイスラーム教を受容する人々が現れていった。中国からは宋代頃に商人がジャンク船を用いて南シナ海よりインド洋に到達し、13・14世紀のモンゴル帝国の時には「海の道」が内陸の交易路と連結して世界的なネットワークを形成した。15世紀に入ると、ヨーロッパにおいて海上交通によるアジア進出の気運が高まり、1498年にヴァスコ＝ダ＝ガマが喜望峰を経由する航路を開くと、ポルトガルがインド洋に進出し、ゴアやマラッカを占拠してインドを経て東南アジアに至る拠点を確保した。このルートがイギリス東インド会社などのヨーロッパ勢力に用いられ、やがてはインドなどでの植民地形成に道を拓いた。(596字)

〔2〕標準解答

問1 (1) アウグスティヌス

(2) マニ教

問2 ③

問3 (1) ローマ教皇レオ10世がサン＝ピエトロ大聖堂の改築資金を賄うために贖宥状の販売を推進した。カトリック教会は贖宥状の購入を善行とみなし、購入すれば過去に犯した罪の償いが免じられ、魂が救済されると説いた。(98字)

(2) カルヴァン

(3) ピューリタン（清教徒）

問4 ④

問5 (1) 義和団

(2) 扶清滅洋

問6 (1) 劉邦

(2) 紀伝体

問7 (1) 大韓帝国

(2) 日本がロシアから賠償金を受け取る内容が盛り込まれなかった点。(30字)

〔3〕標準解答

問1 A 十二イマーム

B シャー

C パフレヴィー

問2 ウイグル

問3 (1) リューリク

(2) ②

問4 漢人

問5 (1) スカルノ

(2) 大コロンビア (大コロンビア共和国)

(3) アイヌ

問6 ③ ⑤ ②

問7 (1) アッティラ (アッティラ王)

(2) 匈奴

問8 ヘレネス

問9 シェイエス